

大阪大学理系数学 解答と配点

1

(1) $f(x) = \log(1+x) - \left(x - \frac{x^2}{2}\right)$

$$g(x) = \frac{x}{\sqrt{1+x}} - \log(1+x)$$

とおき, $x > 0$ で $f(x) > 0$, $g(x) > 0$ を示す.

$$f'(x) = \frac{1}{1+x} - (1-x) = \frac{x^2}{1+x} > 0$$

であるから, $f(x)$ は単調増加であり

$$f(x) > f(0) = 0$$

である. また

$$\begin{aligned} g'(x) &= \frac{\sqrt{1+x} - x \cdot \frac{1}{2\sqrt{1+x}}}{1+x} - \frac{1}{1+x} \\ &= \frac{2(1+x) - x - 2\sqrt{1+x}}{2(1+x)\sqrt{1+x}} \\ &= \frac{2+x - 2\sqrt{1+x}}{2(1+x)\sqrt{1+x}} \\ &= \frac{x^2}{2(1+x)\sqrt{1+x}} \cdot \frac{1}{2+x+2\sqrt{1+x}} > 0 \end{aligned}$$

であるから, $g(x)$ も単調増加であり

$$g(x) > g(0) = 0$$

である.

以上で示せた.

(2) $h(x) = \frac{1}{\log(1+x)} - \frac{1}{x} \quad (x > 0)$

とおく.

$$\begin{aligned} h'(x) &= -\frac{1}{\{\log(1+x)\}^2(1+x)} + \frac{1}{x^2} \\ &= \frac{\{\log(1+x)\}^2(1+x) - x^2}{x^2(1+x)\{\log(1+x)\}^2} \end{aligned}$$

である. (1) の右側の不等式より

$$\{\log(1+x)\}^2(1+x) - x^2 < 0$$

であるから, $h'(x) < 0$ であり, $h(x)$ は単調減少である.

$$\lim_{x \rightarrow \infty} h(x) = 0$$

である.

さらに, x が正で 0 に十分近いとき, (1) の不等式の各辺は正であるから, 逆数をとって

$$\begin{aligned} \frac{\sqrt{1+x}}{x} &< \frac{1}{\log(1+x)} < \frac{2}{x(2-x)} \\ \Leftrightarrow \frac{\sqrt{1+x}-1}{x} &< h(x) < \frac{2-(2-x)}{x(2-x)} \\ \Leftrightarrow \frac{1}{\sqrt{1+x}+1} &< h(x) < \frac{1}{2-x} \end{aligned}$$

である.

$$\lim_{x \rightarrow +0} \frac{1}{\sqrt{1+x}+1} = \lim_{x \rightarrow +0} \frac{1}{2-x} = \frac{1}{2}$$

であるから, はさみうちの原理より

$$\lim_{x \rightarrow +0} h(x) = \frac{1}{2}$$

である.

以上より, 求める値域は

$$0 < y < \frac{1}{2}$$

である.

大阪大学理系数学 解答と配点

2

(1) $f(x)$ が $x-c$ で割り切れることから

$$f(c) = c^4 - ac^3 + bc^2 - ac + 1 = 0 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

である. $a > 0, b > 0$ であるから, $c \leq 0$ とすると

$$f(c) \geq 1$$

となり矛盾する. よって, $c > 0$ である.

①の両辺を $c^4 (> 0)$ で割ることにより

$$1 - \frac{a}{c} + \frac{b}{c^2} - \frac{a}{c^3} + \frac{1}{c^4} = 0 \iff f\left(\frac{1}{c}\right) = 0$$

である.

$c \neq 1$ のとき, $c \neq \frac{1}{c}$ であるから, $f(x)$ は

$(x-c)\left(x-\frac{1}{c}\right)$ で割り切れる.

$c=1$ のとき, ①より

$$b = 2a - 2$$

である.

$$f'(x) = 4x^3 - 3ax^2 + 2bx - a$$

であるから

$$f'(1) = 4 - 4a + 2b = 0$$

である. よって, $f(x)$ は

$$(x-1)^2 \left(= (x-c)\left(x-\frac{1}{c}\right) \right)$$

で割り切れる.

以上で示せた.

(2) $f(s) = f(t) = 0$

であるから, (1)より, $s > 0, t > 0$ であり

$$u = \frac{1}{s}, v = \frac{1}{t}$$

として良い.

解と係数の関係より

$$a = s + t + \frac{1}{s} + \frac{1}{t}$$

であり, 相加・相乗平均の関係より

$$a \geq 2\sqrt{s \cdot \frac{1}{s}} + 2\sqrt{t \cdot \frac{1}{t}} = 4$$

である.

(3) $s + \frac{1}{s} = A, t + \frac{1}{t} = B$

とおく. (2)の計算から

$$A \geq 2, B \geq 2$$

である.

$$a = 5 \iff A + B = 5$$

であるから

$$B = 5 - A$$

であり

$$A \geq 2 \text{ かつ } 5 - A \geq 2$$

$$\iff 2 \leq A \leq 3 \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

である. $f(x) = 0$ において解と係数の関係から

$$\begin{aligned} b &= st + s \cdot \frac{1}{s} + s \cdot \frac{1}{t} + t \cdot \frac{1}{s} + t \cdot \frac{1}{t} + \frac{1}{s} \cdot \frac{1}{t} \\ &= 2 + st + \frac{s}{t} + \frac{t}{s} + \frac{1}{st} \\ &= 2 + AB \\ &= 2 + A(5 - A) \\ &= -\left(A - \frac{5}{2}\right)^2 + \frac{33}{4} \end{aligned}$$

であり, ②から

$$8 \leq b \leq \frac{33}{4}$$

である. これを満たす自然数 b は $b = 8$ である.

(このとき, $(A, B) = (2, 3), (3, 2)$ でこれを満たす正の実数 s, t も存在する).

3

$$\begin{aligned}
 (1) \quad f'(t) &= 2\cos t - 2\sin 2t \\
 &= 2\cos t - 4\sin t \cos t \\
 &= 2(1 - 2\sin t)\cos t \\
 g'(t) &= -2\sin t + 2\cos 2t \\
 &= 2(-\sin t + 1 - 2\sin^2 t) \\
 &= -2(2\sin t - 1)(\sin t + 1)
 \end{aligned}$$

であるから、 $f(t)$ 、 $g(t)$ の増減表は

t	0	...	$\frac{\pi}{6}$...	$\frac{\pi}{2}$
$f'(t)$	+		0		-
$f(t)$	1	↗	$\frac{3}{2}$	↘	1
$g'(t)$	+		0		-
$g(t)$	2	↗	$\frac{3\sqrt{3}}{2}$	↘	0

となる。よって

$$f(t) \text{ の最大値は } \frac{3}{2}, \quad g(t) \text{ の最大値は } \frac{3\sqrt{3}}{2}$$

である。

$$\begin{aligned}
 (2) \quad f(t)^2 + g(t)^2 &= 4(\sin^2 t + \cos^2 t) \\
 &\quad + 4(\sin t \cos 2t + \cos t \sin 2t) \\
 &\quad + (\cos^2 2t + \sin^2 2t) \\
 &= 5 + 4\sin 3t
 \end{aligned}$$

である。よって

$$\begin{aligned}
 f(t_1)^2 &= 5 + 4\sin 3t_1 - g(t_1)^2 \\
 f(t_2)^2 &= 5 + 4\sin 3t_2 - g(t_2)^2
 \end{aligned}$$

であり、これらの左辺は等しいので

$$\begin{aligned}
 5 + 4\sin 3t_1 - g(t_1)^2 &= 5 + 4\sin 3t_2 - g(t_2)^2 \\
 \Leftrightarrow g(t_1)^2 - g(t_2)^2 &= 4(\sin 3t_1 - \sin 3t_2)
 \end{aligned}$$

である。

ここで

$$\begin{aligned}
 f(t) &= 2\sin t + 1 - 2\sin^2 t \\
 &= -2\left(\sin t - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{2}
 \end{aligned}$$

であるから、 $f(t_1) = f(t_2)$ のとき

$$\frac{\sin t_1 + \sin t_2}{2} = \frac{1}{2} \Leftrightarrow \sin t_2 = 1 - \sin t_1$$

が成り立つ。

$$\sin t_1 = s \quad \left(0 \leq s < \frac{1}{2}\right)$$

とおくと

$$\begin{aligned}
 &\sin 3t_1 - \sin 3t_2 \\
 &= 3s - 4s^3 - \{3(1-s) - 4(1-s)^3\} \\
 &= 3(2s-1) - 4(2s-1)\{s^2 + s(1-s) + (1-s)^2\} \\
 &= (2s-1)\{3 - 4(s^2 - s + 1)\} \\
 &= (1-2s)^3 > 0
 \end{aligned}$$

である。よって

$$g(t_1)^2 - g(t_2)^2 > 0$$

である。

(3) $0 \leq t \leq \frac{\pi}{6}$ の y を y_1 、 $\frac{\pi}{6} \leq t \leq \frac{\pi}{2}$ の y を y_2 とする。(1)の増減表と(2)の

結果より

$$\begin{aligned}
 S &= \int_1^{\frac{3}{2}} y_1 dx - \int_1^{\frac{3}{2}} y_2 dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{6}} y \frac{dx}{dt} dt - \int_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{\pi}{2}} y \frac{dx}{dt} dt \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} y \frac{dx}{dt} dt \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} (2\cos t + \sin 2t) \cdot 2(\cos t - \sin 2t) dt \\
 &= 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} (2\cos^2 t - \cos t \sin 2t - \sin^2 2t) dt \\
 &= 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left(1 + \cos 2t - 2\cos^2 t \sin t - \frac{1 - \cos 4t}{2}\right) dt \\
 &= 2 \left[t + \frac{1}{2} \sin 2t + \frac{2}{3} \cos^3 t - \frac{t}{2} + \frac{1}{8} \sin 4t \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\
 &= \frac{\pi}{2} - \frac{4}{3}
 \end{aligned}$$

である。

※ ガウス・グリーンの定理を用いると

$$\begin{aligned}
 &\frac{1}{2} |f(t)g'(t) - g(t)f'(t)| \\
 &= |(2\sin t + \cos 2t)(-\sin t + \cos 2t) \\
 &\quad - (2\cos t + \sin 2t)(\cos t - \sin 2t)| \\
 &= |-2(\sin^2 t + \cos^2 t) + (\cos^2 2t + \sin^2 2t) \\
 &\quad + (\sin 2t \cos t + \sin t \cos 2t)| \\
 &= |-1 + \sin 3t| \\
 &= 1 - \sin 3t
 \end{aligned}$$

であるから

$$S = \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \sin 3t) dt = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 2$$

大阪大学理系数学 解答と配点

$$= \left[t + \frac{1}{3} \cos 3t \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - 1$$
$$= \frac{\pi}{2} - \frac{4}{3}$$

である.



4

(1) $AP : PB = AQ : QC$
 $FR : RD = FS : SE$

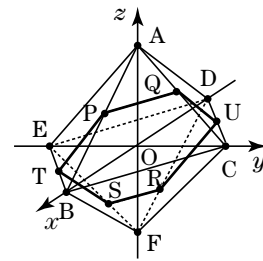
であるから

$$PQ \parallel BC, RS \parallel DE$$

である。これと

$$BC \parallel DE \quad (\text{四角形 } BCDE \text{ は正方形})$$

であることから、 $PQ \parallel RS$ であり、4点 P, Q, R, S は同一平面上にある。



(2) $\vec{OL} = \frac{1}{2}(\vec{OP} + \vec{OQ})$
 $= \frac{1}{2} \left\{ s\vec{OA} + (1-s)\vec{OB} + s\vec{OA} + (1-s)\vec{OC} \right\}$
 $= \frac{1}{2}(1-s, 1-s, 2s)$

であり、同様にして

$$\vec{OM} = \frac{1}{2}(t-1, t-1, -2t)$$

である。

よって

$$\vec{LM} = \frac{1}{2}(s+t-2, s+t-2, -2(s+t))$$

であるから

$$\begin{aligned} |\vec{LM}|^2 &= \frac{1}{4} \{ 2(s+t-2)^2 + 4(s+t)^2 \} \\ &= \frac{1}{2} \{ 3(s+t)^2 - 4(s+t) + 4 \} \\ &= \frac{3}{2} \left(s+t - \frac{2}{3} \right)^2 + \frac{4}{3} \end{aligned}$$

である。 $0 < s+t < 2$ であるから、 $s+t = \frac{2}{3}$ のとき $|\vec{LM}|^2$ は最小値をとる。

このとき、 $|\vec{LM}|$ も最小であり、最小値 m は

$$m = \frac{2}{\sqrt{3}}$$

である。

(3) 平面 $PQRS$ と辺 BE 、辺 CD の交点をそれぞれ T, U とする。さらに、線分 TU と線分 LM の交点を N とする。

平面 $PQRS$ と辺 BC は平行であり、線分 TU はこの平面と xy 平面の交線

であるから

$$TU \parallel BC$$

であり

$$TU = BC = \sqrt{2}$$

である。

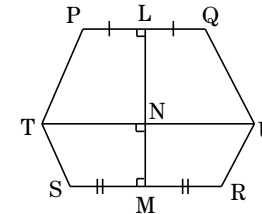
(2) より、 $s+t = \frac{2}{3}$ のとき

$$\vec{LM} = -\frac{2}{3}(1, 1, 1)$$

であり

$$\vec{LM} \cdot \vec{BC} = 0$$

であるから、切り口は下図のようになる。



L, M の z 座標に着目して

$$LN : MN = s : t$$

であり、(2) より $LM = \frac{2}{\sqrt{3}}$ であるから

$$LN = \frac{2}{\sqrt{3}} \cdot \frac{s}{s+t} = \sqrt{3}s$$

$$MN = \frac{2}{\sqrt{3}} \cdot \frac{t}{s+t} = \sqrt{3}t$$

である。さらに

$$PQ = \sqrt{2}(1-s), SR = \sqrt{2}(1-t)$$

である。

よって、切り口の面積 X を2つの台形の面積の和として表して

$$\begin{aligned} X &= \frac{1}{2} \cdot \sqrt{3}s \cdot \{ \sqrt{2}(1-s) + \sqrt{2} \} \\ &\quad + \frac{1}{2} \cdot \sqrt{3}t \cdot \{ \sqrt{2}(1-t) + \sqrt{2} \} \\ &= \frac{\sqrt{6}}{2} \{ 2(s+t) - (s^2 + t^2) \} \\ &= \frac{\sqrt{6}}{2} \left\{ \frac{4}{3} - (s+t)^2 + 2st \right\} \\ &= \sqrt{6}st + \frac{4\sqrt{6}}{9} \end{aligned}$$

である。

大阪大学理系数学 解答と配点

ここで、 $s > 0, t > 0$ より、相加・相乗平均の関係 より

$$\begin{aligned} \frac{s+t}{2} \geq \sqrt{st} &\iff \frac{1}{3} \geq \sqrt{st} \\ &\iff st \leq \frac{1}{9} \end{aligned}$$

である。この等号は

$$s = t = \frac{1}{3}$$

(これは $0 < s < 1, 0 < t < 1$ を満たす)

のとき成立する。したがって、 X は

$$s = t = \frac{1}{3}$$

のとき

$$\text{最大値} \frac{\sqrt{6}}{9} + \frac{4\sqrt{6}}{9} = \frac{5\sqrt{6}}{9}$$

をとる。



大阪大学理系数学 解答と配点

5

(1) $a_1 = p$ である.

$n+1$ 試合目に A が勝つのは

・ n 試合目に A が勝ち, $n+1$ 試合目に A が勝つ

・ n 試合目に B が勝ち, $n+1$ 試合目に A が勝つ

のいずれかであるから

$$\begin{aligned} a_{n+1} &= pa_n + q(1-a_n) \\ &= (p-q)a_n + q \end{aligned}$$

である. $p-q \neq 1$ に注意して

$$a_{n+1} - \frac{q}{1-p+q} = (p-q) \left(a_n - \frac{q}{1-p+q} \right)$$

であるから, 数列 $\left\{ a_n - \frac{q}{1-p+q} \right\}$ は公比 $p-q$ の等比数列であり

$$\begin{aligned} a_n - \frac{q}{1-p+q} &= \left(a_1 - \frac{q}{1-p+q} \right) \cdot (p-q)^{n-1} \\ \Leftrightarrow a_n &= \frac{q + (p-p^2+pq-q) \cdot (p-q)^{n-1}}{1-p+q} \\ &= \frac{q + (1-p) \cdot (p-q)^n}{1-p+q} \end{aligned}$$

である.

(2) A が勝つことを \circ , B が勝つことを \times で表す.

$n \geq 4$ のとき

$\circ \cdots \circ \times \circ \cdots \circ \times \circ \cdots \circ$

($\circ k$ 個) ($\circ l$ 個) ($\circ m$ 個)

$$k+l+m=n-2, k \geq 0, l \geq 1, m \geq 0$$

となる確率を考える.

・ $m=0$ のとき

\circ の後ろの \circ 確率 p

\circ の後ろの \times 確率 $1-p$

\times の後ろの \circ 確率 q (1 個ある)

であるから, k, l を固定するとその確率は

$$p^{n-3}(1-p)^2q$$

であり, k, l の決め方が $n-2$ (通り) ある.

・ $m \geq 1$ のとき

\times の後ろの \circ が 2 個になるので, k, l, m を固定

するとその確率は

$$p^{n-4}(1-p)^2q^2$$

であり, k, l, m の決め方が ($m \geq 1$ に注意して)

$${}_{(n-2)-2+2}C_2 = \frac{(n-2)(n-3)}{2} \text{ (通り)}$$

ある.

以上より, $n \geq 4$ のとき

$$\begin{aligned} b_n &= (n-2) \cdot p^{n-3}(1-p)^2q \\ &\quad + \frac{(n-2)(n-3)}{2} \cdot p^{n-4}(1-p)^2q^2 \\ &= \frac{(n-2)}{2} p^{n-4}(1-p)^2q \{2p + (n-3)q\} \end{aligned}$$

..... (*)

である.

$n=3$ のとき

$\times \circ \times$

と出る場合であり, その確率は

$$(1-p)^2q$$

であるから, $n=3$ のときも (*) は成り立つ.

以上より

$$b_n = \frac{(n-2)}{2} p^{n-4}(1-p)^2q \{2p + (n-3)q\}$$

($n \geq 4$)

である.